

図書館で英文多読を楽しもう

英文多読は、所謂勉強ではありません。学校時代に行った語彙・文法学習は一旦脇に置き、英文和訳も、あえて避けようとしません。さし絵の助けも借りながら、物語の世界に入り込み、主人公達と笑ったり、怒ったり、ちよっぴり悲しんだりします。それでも一定期間続けると、気づかないうちに英文を楽に読めるようになり、TOEIC等で測定できる英語運用能力も向上してしまうのです。

2005年に蒲郡市立図書館に英文多読コーナーが設けられてから、17年が経過しました。図書館が所蔵する約3,300冊のやさしい英文図書を活用して数百万語の多読を経験し、今では新作英文小説の読書を趣味としている人もいます。しかしながら、英文多読は、日本の伝統的な学校英語教育の常識とは視点が異なることもあり、楽しく続けるためには、その原理としくみ、有益な読み方など確認しておきたい点も少なくありません。また、特に始めた当初は、どのような図書が適切なのか分らず、英文レベルや、ジャンルの選択、読み方等で、迷われることも少なくないと思います。本日の講座が、疑問解消の契機になれば幸いです。

また、蒲郡市立図書館では、年に数回、英文多読相談会も行っていますので、気軽にご利用ください（次回予定は11月3日）。

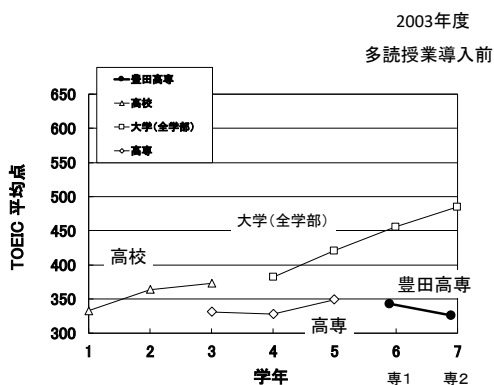
1. 100万語英文多読とは

100万語英語多読は、NPO多言語多読理事の酒井邦秀先生が提唱され始めた英文読書法で、右記「多読三原則」に従って、やさしい英文から読み始めます。補足すると、

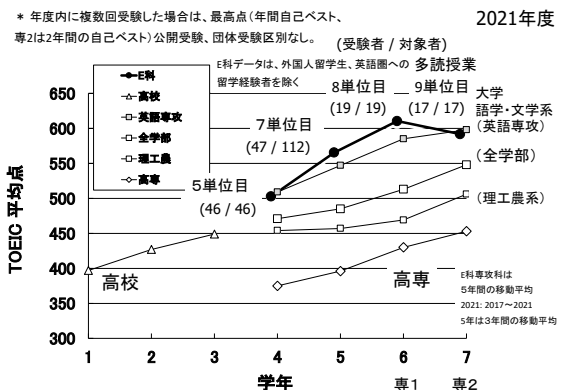
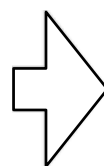
- 1) 辞書を引かない
- 2) わからないところは飛ばす
- 3) 進まなくなったらやめる

- 1) 読書中には辞書を引きません。特に英和辞典を使うのは、英文和訳を前提としているからですが、多読では英文から直接内容を理解することを目指し、日本語はなるべく避けます。辞書を引こうとすると日本語で考えてしまい、英語での読書が中断されてしまうのです。日本語を気にせず英文読書を楽しむためにも、辞書を引かなくても楽しめる絵本から始めましょう。
- 2) 物語が「わからない」理由は、知らない単語や表現があるからとは限りません。日本語の小説を読むときは、知らない漢字や表現も気にせず読み飛ばしていますよね。日本語の読書と同様に、英文を読むときも、細部に拘るのではなく、物語の展開を楽しむ読み方をしましょう。
- 3) それでも読書が進まないのは、難しい本、趣味に合わない本を選んだからです。すこしでも手強いと思ったら、その本は途中で読むのを止め、次の本（もっとやさしい本、趣味の合う本、おもしろいと思える本）に移りましょう。

このように、多読ではやさしい英語の本が大量に必要なため、図書館の活用が不可欠なのです。



100万語
以上の
多読



TOEIC全国平均（多読前：2003年度）

（多読授業追加後：2021年度）

E科：豊田高専電気・電子システム工学科

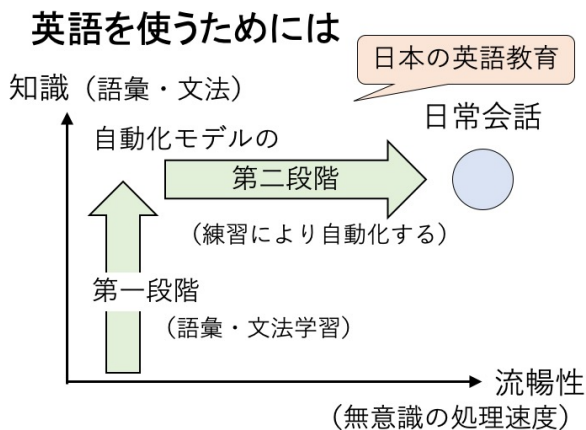
2. 英語多読100万語の効果

数百冊の絵本を読んで、読書量がのべ30万語になる頃には、（やさしい英文なら）和訳せずに楽しめることを実感します。また、のべ100万語のやさしい英文を読む頃には、快適に読める英文を自分で判断できるようになり、TOEIC得点でも顕著な変化を期待できるようになります。

実際に2003年度以前には英語を苦手としていた高専生が、7年継続の多読授業で100万語以上のやさしい英文図書を読み、TOEIC得点を英語専攻の大学生（全国平均）並みに上昇させた事例（前頁の右図）は、多くの人に安心感を与えるでしょう。多読授業は3年間ではTOEICで顕著な効果が現れていませんが、4年目以降からはTOEIC得点も上昇し、6年継続者の平均点は10ヶ月の英語圏留学をした3年生の平均点（TOEIC606点）に匹敵しています。豊田高専では、これまでに301人の学生が100万語を読破し（2021年6月現在）英語への苦手意識を克服、英文読書を楽しんでいます。

3. 日本人は流暢性が不足

多くの日本人（大人）は、学校で6～10年間、数100時間～1,000時間以上かけて英語を学んできましたが、話す、書くという能動的なスキルだけでなく、聞く、読むという受動的なスキルにも自信がないのが普通で、「なぜ英語を使えないのか？」との疑問に思っています。日本人が英語で苦勞する理由は簡単で（英語情報を無意識で処理する低レベルの）流暢性が不足しているのです。



言葉を使うために不可欠な2つの要素、すなわち、知識と流暢性（右図）のうち、日本の英語教育では（大学入試に対応するため）語彙・文法知識の習得は重視されるものの、（これらの知識を無意識に処理する）流暢性を育成することは意識されていませんでした。（日本の英語教育が取依っている）自動化モデルでは、第一段階で語彙・文法知識を学んだあと、第二段階で学んだ知識を自動的に使えるよう練習することになっているのですが、大学入試は、知識習得（第一段階）だけでパスできるので、その後、自動化のための練習（第二段階）をしていないのです。英語の知識

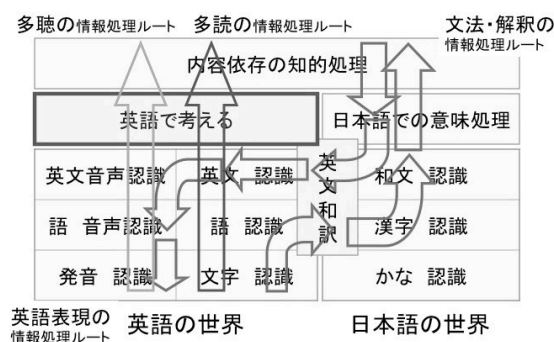
はあっても、流暢性が極端に不足しているため、英語を使うことができないのです。

例えば、既知の語彙・文法のみで表現されたやさしい英文でも、長くなると（例えば、3千語以上になると）疲れてしまって読み続けられない人は、読みの流暢性が不足しています。英文を英文のまま理解できないため、英文を和訳し内容を日本語訳で理解している証拠です。この状況を「読めるが、話せない」と言うのは誤用で、「訳せるが、読めない」と認識すべきです。

4. 和訳を避け、英語で考える

流暢性向上には自ら英語を使う、すなわち「英語で考える」体験が不可欠です。しかしながら、伝統的な英語の授業では、英文を和訳後に（日本語で）意味処理をしています（右図：文法・解釈の情報処理ルート）が、一見英語を使っているように見えるコミュニケーションの授業でも、多くの学生は、日本語で考えた文を和文英訳してから発話しています（右図：英語表現の情報処理ルート）。いずれも学生は日本語で考えており、英語を使う体験になって

英語コミュニケーションにおける情報処理の階層と処理ルート



いません。

そこで多読では、和訳を避けるべく、絵と音声の物語の助けを借りて、英語だけで意味を汲み取ることを目指します。英文を一文ずつ和訳するのではなく、英文から直接意味をとる（物語を画像イメージとして思い浮かべる）練習を続けることで、次第に読書中は「英語で考える」ようになります。このような読み方をすれば日常生活で英語を使わない日本の環境下でも、頭の中では英語を使う（読む、聴く）疑似体験を積むことができるのです。

5. 流暢性向上に必要な英語使用体験時間

英語使用体験で流暢性を向上させるのに必要な時間を見積もります。英語圏に留学した高専生は、最初の3ヶ月間やさしい英語で話されても聞き取れずに苦勞しています。彼らは英語の音を聴き取るのに3ヶ月（300時間）、日常会話レベルの流暢性（TOEIC 600点程度）を得るまでに10ヶ月（1,000～2,000時間）要しています。彼らと同様に、会話ベースで1,000時間の英語使用体験を積むとすると、毎日1時間で約3年、週1時間では20年かかる計算です。

他方、豊田高専の7年継続多読授業（毎週1回45分＋課外読書）では、受講生が平均200～300万語の読書量（毎分100語で330～500時間）でTOEIC 600点に達しており、多読による英語使用体験は留学よりも体験密度が高く、時間効率も高い可能性があります。

6. やさしい英文の必要性

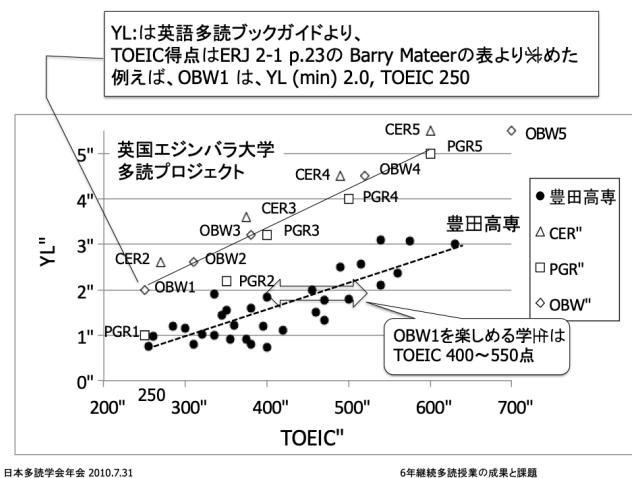
ただし、多読が英語使用の疑似体験として機能するためには、日本語に訳することなく理解できる英文を読むことが不可欠です。しかしながら、（TOEIC450点ならこのレベル）と推薦されているレベルの基になっている英国エジンバラ大学多読プロジェクト（EPERが欧州人向けに設定した）英文レベル（右図実線）は二音人には難しすぎて、理解のために和訳せざるをえなくなるので要注意です。

例えば、OBW1*1（Oxford Bookworms Stage 1: 50万語以上読破者への推薦書として表3にあります）は、EPERではTOEIC 250点の学習者（中学3年生？）への推薦図書となりますが、YL2.0*2の本書は、豊田高専の多読クラスでは、TOEIC 400～550点の学生（4年生以上）でないと楽しんで読めていません。400点未満の学生では、英文を一文ずつ和訳しないと意味を把握できず、読書を楽しめないのです。

不幸なことにEPERレベルは一文ずつ和訳して読むことのできるレベルと一致するため、（和訳せずに読む100万語）英語多読が、（数万語の？）英文和訳と混同される一因になっています。大手書店の洋書売り場で図書推薦に使われるTOEIC得点表示は信用しないでください。いつまでも和訳に頼った読み方から卒業できず、「たくさん読んでいるのに、多読の効果を実感できない」と悩むことになります。思い切って（やさしすぎるのでは？と疑問に思うような）絵本から始めてみてください。しばらく続けていると、この主張の意味を実感できるようになります。

7. 100万語までのモデルコース

高校・大学生の多読が目に見える効果を上げ始めるには、（和訳しない）英文読書：100万語が必要です。大人に必要な読書量も（少なくとも、桁は）変わらないようですので、実際に、蒲郡市立図書館を利用して、のべ100万語の英文を読むためのモデルコースを示してみたいと思います。



（最初の10万語は、絵本の多読で）

2005年に蒲郡市立図書館に英文多読コーナーが設けられて16年が経過していますが、多読の入門に最適なものがOxford Reading Tree (ORTと略称¹⁾)であることは変わっていません。図書館には、ORTが、Decode&Develop(ODD)も含めて、Stage 1 (YL0.0²⁾) からStage 9 (YL1.0) まで256タイトルが揃っており、手軽にご利用できます。まずは、ORT1～7：220冊を、やさしいものから順に、全部読みましょう。のべ8～12時間の読書時間が必要になると思いますが、これだけで累積読書量は5.4万語になります。

ORTは、英国小学校の授業で使われている読本のシリーズで、主人公一家の日常から子供達の冒険へと発展するストーリー展開と、きれいなイラストで人気があります。シリーズを通して、登場人物と背景が共通し、一つの世界を作っているのが特長です。絵本のすぐれたところは、イラストをじっくり見ることで、ストーリーを把握できるので、英文を和訳する必要がないことです。特に学校英語を熱心にやりすぎて、英文を和訳するクセが身に付いている人は、絵本の多読で、この習慣（悪癖）から脱し、英文（とイラスト）から内容を把握する練習をしましょう。知らない単語や表現を探すのではなく、むしろイラスト内の細かな遊びを探し、物語の世界を堪能しましょう。

ORTを本格的に楽しみたい人は、ぜひ、英文のないStage 1から順に読んでください。ここで登場人物の性格と人間関係、生活環境になじんでおくと、Stage 3以降のストーリー展開が分かりやすくなります。お急ぎの人も、Stage 4の「1 House For Sale」～「6 The Storm」は、通して読みましょう。主人公一家が新しい家に引越し、子供達が魔法のマジック・キー（Magic Key）を発見します。また、子供達の冒険旅行は、Stage 5の「1 The Magic Key」で始まり、Stage 6以降のメインストリームになります。

ORT5まで読んだら、加えて、十代の若者に人気のFoundation Reading Libraryシリーズ Level 1～4 (FRL1～4) の24冊（2万語）、Building Blocks Library (BBL3～6)の26冊（0.8万語）、ほのぼのとした作風で大人のファンも多いCynthia Rylant作の Mr. Putter & Tabbyシリーズ、同じく Henry & Mudgeシリーズ、Pearson English Kids Readers (PKR1～3)、I Can Read Booksの My Firstと Level 1 (ICR0, 1) 等の絵本や、Magic Adventures、VERA the Alien Hunter（計36冊、1.7万語）等の入門用マンガシリーズも読み、ORTと合わせて、のべ10万語を読みましょう。

やさしい絵本で最初の10万語を読んだら、次は、英語学習者向けに語彙、文法、テキストの長さを制限して書かれた読本：“Graded” Readers (GRと略称) と児童書を組み合わせて、のべ100万語読破を目指しましょう。100万語までを3つのステップに分けて、お薦め図書を紹介します。

（10～30万語は、レベル0～1のGRとICR2で）

絵本で10万語読んだら、次は表1のGR (MMR1～MMR2) を約90冊と、ICR2を約45冊組み合わせて30万語まで読んでみましょう。

GRは絵本に比べて文字が小さく、挿絵の魅力は落ちますが、これらを気にせず、英文の表現に注目すると、意外に読みやすいことに気づきます。「知らない単語はほとんど無いけれど、表現が単調だなあ」と思われたら、ズバリ、GRの特徴を捉えています。レベル2までのGR (YL0.8～2.8) は、ほぼ中学校で習った基本単語だけで書かれているのです。やさし過ぎると感じても、YL0.8～1.2のGRを省略せずに読むのが多読のコツであると、近年の実践結果から分かってきています。

英文を直接読めているのか、（気づかないうちに）日本語に翻訳しているのか、自分ではよく分かりにくいものです。毎分100語程度の読書速度で読めているか測ってみる（PGR0の”Marcel and the White Star”：962語を10分で読み切れればOK）のも手ですが、頻繁に測ると、速く読もうと無理して疲れてしまいますので、ご注意ください。

表1 レベル0～1のGRとICR2

シリーズ (略号)	YL	冊数	平均語数 (万語/冊)
Macmillan Readers, Starter (MMR1)	0.8	16	0.06
Penguin Readers, Easystarts (PGR0)	0.8	30	0.09
Oxford Bookworms, Starter (OBW0)	0.8～0.9	13	0.13
Oxford Reading Tree, Stage 8, 9 (ORT8, 9, ODD8, 9)	0.8～1.1	36	0.14
Foundations Reading Library, Level 5～7 (FRL5～7)	1.0～1.2	18	0.22
School Adventures, Level 1～3 (SCAD1～3)	0.8～1.1	18	0.16
Penguin Readers, Level 1 (PGR1)	1.0～1.4	33	0.21
Cambridge English Readers, Starter (CER0)	1.2	11	0.22
Macmillan Readers, Beginner (MMR2)	1.2	23	0.23
I Can Read Books, Level 2 (ICR2)	1.2	82	0.13

レベル0のGRで、高専の学生に人気があるのは、“Photo Finish” (MMR1), “The Long Road” (PGR0), “Marcel and the Mona Lisa” (PGR0), “Girl on a Motorcycle” (OBW0), “Red Roses” (OBW0), “Anna and the Fighter” (MMR2) などです。

Little Bearシリーズ (ICR1ですが、読みやすさは、このレベル) は、挿絵を見たことがある人も少なくないと思いますし、ICR2のFrog and Toad 4部作 (A. Lobel作) は、有名なだけでなく、大人も楽しめる絵本として人気の高い作品です。

（30～50万語は、レベル1のGRの聴き読みで）

1冊2千語以下の短い作品で30万語まで読んだら、次は、表2のGR全43冊を、ぜひ聴き読みで読んでみましょう。累積読書量は約50万語に近くなります。

表2 レベル1のGR

シリーズ (略号)	YL	冊数	平均語数 (万語/冊)
Richmond Robin Readers, Level 1 (RRR1)	1.4	14	0.4
Cambridge English Readers, Level 1 (CER1)	1.4	14	0.42
Cengage Page Turners, Level 1～3 (PATU01～03)	1.2～1.6	15	0.41

RRR1は付属の朗読CDを、また、CER1とPage Turnersは、朗読音声ファイルを出版社のHP (p8, 14, 15) からダウンロードして活用します。

これらの作品は全てオリジナルで (GRには、Retold: 原作の書き直しとOriginal: GRが原作の2種類があります) 読みやすく感じると思います。Retold作品は、やさしい英文に書きなおすだけでなく、長編作品を短いテキストに圧縮しているため、あらすじだけになりやすく、あっけなく感じるでしょう。朗読の速度は、RRR1がゆっくり (毎分100語程度)、CER1がGRの標準 (毎分130語程度)、PATU1～3はやや速い (日常会話レベル: 毎分150語程度) と異なりますので、ゆっくり朗読から順番に読んでいくと、無理なく日常会話レベルの速度まで慣れて来ましょう。

また、このレベルの児童書を読みたいと思ったら、Nate the Greatシリーズ (全25冊) を試してみてください。邦訳: 「ぼくは名探偵」で知られる古典的作品で、プロの探偵を気取るNate少年

が、名犬Sludgeの助力を得て、難（？）事件を次々に解決する物語です。母国語の児童書なので、知らない単語やひねった表現も遠慮なく使われますが、長年の読者の評価に耐えた作品は「面白い」です。英語学習としての多読が、純粋な読書に変化していくキッカケにもなりますので、知らない単語を飛ばして読む、多読の読み方に慣れた人は、ときどき、手を出してみましょう。

「聴き読み」とは

朗読音声を聴きながら多読をすることです（聴きながら読む）。朗読音声を途中でポーズすることなく、最初から最後まで通して聴き、そのペースに合わせてテキストを読みます。朗読音声は、あくまでペースメーカーとして利用し、内容把握はテキストでします（音声から内容を把握しようとしな）。最初は単語レベルの発音がテキストと朗読音声でずれることが気になるかもしれませんが、気にしません。聴き読みに慣れてくると朗読音声があった方が読みやすく感じられるようになります。

聴き読みの効能

- 1) 最初の効能は、翻訳防止、戻り読み防止です。朗読のペースに合わせて読むので、英文を単語レベルで日本語に翻訳する従来の英文和訳から卒業しやすくなります。英文を読んでいると、どうしても和訳してしまうクセの残っている方は、ぜひ聴き読みを翻訳防止に使いましょう。
- 2) 第二の効能は、英語のリズムに慣れることです。朗読をペースメーカーとして使っているだけのつもりでも、長い時間英語の音声に触れているので、英語のリズムやイントネーション、カタカナ英語との違いに、だんだんと慣れてきます。英語音声は、音楽や雑音に近い感覚から（意味は分からないけれど）言葉であると認識できるようになり、「朗読を聴きながらの方が読みやす」くなります。

（50～100万語は、レベル2～3のGRで）

50万語近くまで読んだら、さらに、表3のGRから約60冊読めば、のべ100万語に達します。このレベルを読んでも疲れなくなれば、英文多読は軌道に乗ったと考えられます。ただ、自らの進歩を感じにくくなるのも、この頃です。進歩を確認するには、他人と比較するのではなく、過去の自分と比べるのがベスト。例えば、読書量10万語、20万語頃に読んだ本（なるべく、内容を忘れていた本がよい）を、もう一度読んでみて、読みやすくなっているかどうかを確認してみましょう。

表3 レベル2～3のGR

シリーズ (略号)	YL	冊数	平均語数 (万語/冊)
Oxford Bookworms, Level 1 (OBW1)	2.0	25	0.55
Macmillan Readers, Beginners (MMR2+)	1.6～1.8	21	0.86
Cengage Page Turners, Level 4～6 (PATU04～06)	1.8～2.2	13	0.6
Penguin Readers, Level 2 (PGR2)	2.2	86	0.72
Cambridge English Readers, Level 2 (CER2)	2.6	14	0.9
Macmillan Readers, Elementary (MMR3)	2.8	43	1.1

（表2）のCER1がラクになったら、漆黒の装丁が目立つOBW1を読んでみましょう。ただし、1冊を1時間でラクに読むことができない場合は、頑張っこのシリーズを読むのではなく、1冊4千語以下の短い作品を読書の中心にするのが賢い選択です。OBW1だけでなく、GRの挿絵は日本人の感覚と合わないものが多いようですが、（挿絵については）贅沢を言わずに読みましょう。オリジナルでは、“White Death”, “The Coldest Place on Earth” が一番人気。Retoldでは、“A Little Princess”, “The Wizard of Oz”やSherlock Holmesの2作品など、著名な作品もあります。

英文がやさしくて長い作品を読みたい人にお薦めなのが、古典のRetoldが中心のMMR2+です。ただし、いずれも登場人物が多いので、人物紹介のページを参照しながら読むのが良いでしょう。“The Black Tulip”, “Jane Eyre”, “Phantom of the Opera”, “The Prisoner of Zenda”, “A Tale of Two Cities”など有名作品が揃っています。

最もタイトルが多いPGR2は、読みやすい本と読みにくいと感じる本が混在しています。裏表紙のあらすじも参考に、知っている作品を探しましょう。また、読み始めて合わないと思ったら、すかさず投げるのも大切です。映画から小説化された“Babe: The Sheep-Pig”, “The Bird”, “Mr Bean in Town”, 古典のRetoldの“Heidi”, “Robin Hood”, “The Railway Children”はいかがでしょう。

展開の早い話がお好きな方は、ミステリのオリジナル作品が人気のCER2をどうぞ。“Logan’s Choice”, “Dead Cold”, “The Double Bass Mystery”等を（聴き読みで）どうぞ。

1冊平均1万語と長い割に読みやすいと感じる場合も少なくないのが、MMR3です。青春小説として若人に人気の“Dawson’s Creek” 4部作, “Princess Diaries”だけでなく、“The Canterville Ghost…”, “Frankenstein”, “The Picture of Dorian Gray”等の古典のRetoldも人気があります。このレベルでは、英語圏の小学校低学年向きに書かれた児童書も豊富で、蒲郡図書館には、Rainbow Magic (1～35巻) と Magic Tree House (1～48巻)があります。Rainbow Magicは英国の小1女子に圧倒的な人気のファンタジーです。Magic Tree Houseは、米国の小学生の総合学習用ですが、大人が読んでも新鮮です。各巻の主題は、子供たちに人気の恐竜、中世の騎士等、テーマから、17巻以降は米国の歴史的へと発展します。29巻以降は全文長が2倍になり手応えも増します。

8. 多読を楽しく続けるために

1) 「英語で考える」ためには、極めてやさしい英文から

日本の学校英語教育では、語彙と文法を学び、これらの知識を用いて英文を和訳する（一文ずつ日本語文に翻訳し、日本語文を通して意味を理解する）ことを、英文を「読む」こととしてきましたが、これで英文小説を楽しめるようになった日本人は極めて稀です。例えば、Harry Potter 第1巻は、日本語版なら1～2日で気軽に読める児童小説ですが、7.7万語の英文をワクワクしながら数日以内に読み切る知人をご存知でしょうか。1章だけなら英文和訳もできますが、丸ごと一冊訳しながら読むのでは苦行になってしまいます。多読の第一歩は、英文和訳から卒業することです。

2) 知識より流暢性

試験勉強（試験の前に、傾向と対策に従い、必要最小限の知識を効率よく覚えようとする行動）は、学校教育の暗黒面でしょう。ルールと戦略を教室で学ぶだけで野球が上達することは考えられないのと同様に、文法と語彙を覚えるだけで、外国語を使えるようになることはあり得ません。スポーツや音楽演奏と同様、一定期間の練習（実際に、言語を使用する体験）により、流暢性を高めることが不可欠なのです。やさしい絵本で10万語読み、（和訳しない）読み方を体得したら、モデルプランを参考に、まずは100万語を当初の目標として、読書体験を積みましょう。

3) 英文多読を趣味として

楽しく続けるためには、英文多読を趣味とするのが一番です。学習法として子供（や孫）に押し付けるのではなく、趣味（の一つ）として自分で始めましょう。まずは焦らず、気長に構えることです。「3ヶ月後のTOEICで得点を50点上げたい」から読むのではなく、「5年後にはHarry Potterを読み始めたい」という方が、イメージが合います。多読の楽しみは、（徐々に長い英文を読むようになってしまう）自らの変化の発見と、新しい世界との出会い（お気に入りの作家や未知の作品の発掘）です。同好の仲間との多読談義など、他の趣味と同様に楽しみを広がりもあります。

4) 図書館とインターネットを活用しよう

やさしい英文絵本を大量に読むことから始める多読の、最大の障害はコストでした。ORT166冊で約8万円と入門用教材だけで10万円を越え、数ある高価な英語教材と同様の支出が必要になってしまいます（しかも、入門用教材を何度も繰り返して読むことは稀です）。少なくとも1冊10万語程度の大衆小説が読めるようになるまでは、図書館で借りて読むのがよいでしょう。

また、インターネット上にも、多読を支援する有用なサイトがあります（次節の12) 13)）。全国が多読愛好者との情報・体験交換や、各レベルのお薦め作品の発掘に活用してみましょう。

9. 参考資料

読む本を選ぶのに、役に立つのは、

- 1) 『めざせ1000万語！英語多読完全ブックガイド』古川昭夫&神田みなみ他、コスモピア
- 2) 『大人のための英語多読入門』佐藤まりあ、コスモピア

読書を継続するのに役に立つのは、

- 3) 『100万語多読入門』古川昭夫、コスモピア
- 4) 『読書記録手帳』SSS英語学習法研究会、コスモピア

100万語多読の考え方を知るには、

- 5) 『快読100万語！ペーパーバックへの道』酒井邦秀、ちくま学芸文庫
- 6) 『英語多読法』古川昭夫、小学館101新書
- 7) 『英語多読 すべての悩みは量が解決する』繁村一義、アルク

英語教育に興味のある方には

- 8) 『英語多読・多聴指導マニュアル』高瀬敦子、大修館書店
- 9) 『図書館多読のすすめかた』西澤一&米澤久美子&栗野真紀子、日本図書館協会
- 10) 『英語の多聴多読最前線』、コスモピア

また、雑誌とインターネットサイトとして

- 11) 「多聴多読マガジン」コスモピア（隔月刊）
- 12) NPO多言語多読HP (<http://tadoku.org/>)
- 13) 蒲郡市立図書館HP「英文多読」(<http://www.city.gamagori.lg.jp/site/toshokan/tadoku.html>)

朗読音源の入手先

- 14) Cambridge English Readers(CER)の全文朗読
出版社HP (<http://www.cambridge.org/readers/>) に利用者登録が必要
- 15) Cengage Page turnerシリーズの全文朗読
出版社HP (ngl.cengage.com/pageturners) の「Student Companion site」から
- 16) Audible (<http://www.audible.com> 音源データ販売サイト：有料)
会員登録すると、\$14.95 /月で1本/月のオーディオブックをダウンロード（購入）できる
(多聴多読マガジン¹⁰⁾ 2011年6月号 p92~95にAudible活用術の記事あり)
- 17) はじめての「字幕なし多観」こども向けアニメ<YouTube編> (<https://tadoku.org/english/anime/>)
Peppa Pig, Sarah and Duck等、オススメの12作品（英語圏の子供向けアニメ）を紹介しています

10. 豊田高専では、なぜ英文多読授業を始めたの？

豊田高専は創造的な技術者育成では実績がありますが、2000年頃までは英語教育で悩んでいました。卒業生の英語運用能力が低く、英語への苦手意識が強かったからです。そんな中2002年10月から5年生の授業で英文多読を始めたところ「英語に対する苦手意識が消えた」と好評だったため、2004年度には6年間継続の英文多読授業を始めました（電気・電子システム工学科）。2008年からは学校全体で英文多読授業（1,2年生の一般科目）も展開しています。

*1 略号：100万語英文多読法では、本のシリーズを示すのに、よく4文字の略号を使います。例えば、Oxford Reading Tree Stage 5 は、ORT5 と呼ばれます。

*2 YL（読みやすさレベルの略称）：100万語英文多読法では、読みやすさを、最も易しいYL0.0から、一般のペーパーバック：YL7.0~9.0までの数値で表しています。